



# 上場会社にとっての実務対応について

---

ー第10回 XBRL Japan シンポジウムー

2007年3月13日

株式会社プロネクサス

XBRL推進室 竹内 正

# EDINETにおけるXBRL導入

## ■ 2008年4月以降導入予定

- ✓ EDINETシステムのリプレースが行われ、提出手続きについても一定の変更が予想される

## ■ XBRLデータ化される書類は、当初、有価証券報告書、半期報告書、四半期報告書、有価証券届出書

- ✓ XBRLデータ化される範囲は、当初、連結／個別の財務諸表本表（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書）部分
- ✓ 対象書類、対象範囲は導入後順次拡大の方向

## ■ XBRL化の対象範囲以外は現行EDINETと同様のHTMLが継続

- ✓ 財務諸表本表のXBRLファイルおよびその他記載内容のHTMLファイルを提出



# 実務担当者から多くいただくご質問

## ■ HTMLとXBRLは何が違うのか？

- ✓ HTMLは表示体裁重視、XBRLは個々の情報が持つ意味の記述を重視するデータ形式

## ■ 難しい言語仕様を覚える必要があるのか？

- ✓ 作成担当者は、言語の詳細な仕様ではなく、ツールを利用して記述されるXBRLデータが持つ情報の特徴を理解しつつ、書類作成の実務手順を把握することが重要

## ■ 現在の開示レベルより詳細な情報開示が求められるのか？

- ✓ EDINETタクソノミとしては、基本的に現在開示しているレベルの情報を記述できることが第一義的

## ■ WordやExcelだけの編集作業で簡単にファイル生成できないか？

- ✓ XBRLツールの機能の一部として組み込むことは可能と思われるが、WordやExcel単独の機能として簡単に自動変換できるわけではない。



# XBRL文書の構成

## ■ XBRL文書の構成

- ✓ XBRL文書の中核は、「タクソノミ」と「インスタンス」で構成

## ■ タクソノミとは？

- ✓ XBRL文書で使用する会計概念(たとえば財務諸表で使用する勘定科目など)を要素として辞書化するとともに、要素間の関係性を定義するファイル群

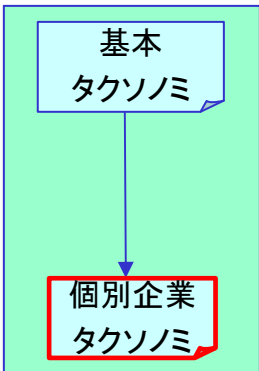
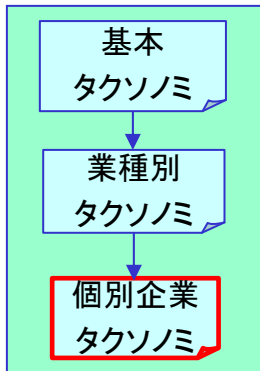
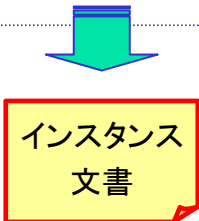
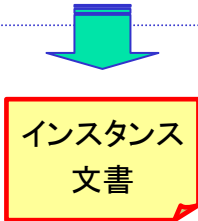

## ■ インスタンスとは？

- ✓ タクソノミで定義された要素を使って記述された提出企業財務情報等の実データファイル

タクソノミで定義された要素を使用してインスタンスを記述することにより、個々のデータの意味を把握できる

# XBRL部分の提出ファイル

## EDINETタクソノミと提出会社が作成すべきファイル

タクソノミ	辞書に定義された要素を使い(必要に応じ追加辞書も作成して)	 <pre> graph TD     A[基本タクソノミ] --&gt; B[個別企業タクソノミ]             </pre>	 <pre> graph TD     A[基本タクソノミ] --&gt; B[業種別タクソノミ]     B --&gt; C[個別企業タクソノミ]             </pre>	EDINETがあらかじめ用意するタクソノミ
インスタンス	財務情報等の実データ(提出書類本体)を作成	 <pre> graph TD     A[インスタンス文書]             </pre>	 <pre> graph TD     A[インスタンス文書]             </pre>	提出会社は  のファイルを作成・提出



# タクソミ編集作業の骨格

- 自社の属する業種を選択する
  - ✓ 財務諸表等規則等の他、各業法規則等の準拠状況により判断
  - ✓ 複数業種を選択する可能性もあり
  
- 自社が開示している勘定科目が、EDINETタクソミのどの要素に該当するかを判定する
  - ✓ 表示文字列ではなく、同等の概念かどうか
  - ✓ EDINETタクソミのうち根拠条文のない勘定科目については、実務上一般的に利用されているものと同等の勘定科目という判断ができるか
  
- EDINETタクソミに該当する要素がないと判断した場合には、新規に要素を設定する
  - ✓ EDINETタクソミに同等と判定される要素が存在するにもかかわらず独自要素を定義することは、本来の趣旨に沿わない。

## 新規追加要素の設定

### 新規要素の設定項目例(説明用の簡略モデル)

◆要素名 : <b>LossFromFloodDisasterAtOsakaFactory</b>	
◆日本語名称(ラベルリンク) : <b>大阪工場水害損失</b>	
◆英語名称(ラベルリンク) : <b>Loss from flood disaster at Osaka factory</b>	
◆表示階層／順序関係(表示リンク) 特別損失 └ 固定資産売却損 └ <b>大阪工場水害損失</b> └ 特別損失合計	◆加減算の階層関係(計算リンク) 特別損失合計 └ 固定資産売却損 └ <b>大阪工場水害損失</b>

- ✓ 上表の◆は、それぞれ別個のファイルに当たる。
- ✓ 要素名とその表示名称(日本語／英語)に加え、表示階層上の位置関係や加減算の計算関係を指定する。

# XBRL化が実務に与える影響(メリット)

## ■ XBRL化により合理化が進むと思われる事項

- ✓ データの2次利用性の向上により、情報発信の意味合いが大きく高まる
- ✓ 英文財務情報の即時提供が可能に
- ✓ 法令改正にもEDINETタクソノミの側で対応
- ✓ 計算リンクの情報から、データの適正性をチェックできる
- ✓ 記載項目の自動チェックも視野に
- ✓ 2年目以降の作業は前回構築したタクソノミをベースにでき、年度ごとに新規に追加あるいは変更される勘定科目等のフォローが中心に
- ✓ 仕訳段階からXBRL化、あるいはXBRLデータへの集約情報を内部的に持てば、有価証券報告書、決算短信等に限らずさまざまな財務書類を自動で作成できるところまで視野が広がる



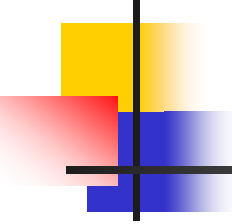


# XBRL化実務対応のまとめ

## ■ XBRL対応に際しての留意事項

- ✓ XBRLでは、勘定科目等の情報を記述するに当たり、EDINETタクソノミ等で準備されたどの要素を使用するかの判定作業が前提となる。
- ✓ 使用する要素の決定プロセスを明確にし、書類作成部門内での組織的な運用を図り、監査人との綿密な調整を行う必要がある。したがって、XBRLに関し一人の担当者が理解していればよいという問題ではない。
- ✓ XBRLデータの場合には、見た目には問題ない場合でも計算構造が間違っていれば訂正の対象となることがあり得る、といった特性をよく理解する必要がある。

EDINET、TDnetの仕様への準拠はXBRL文書作成ツールでカバー  
周到な準備で新時代のディスクロージャーへ！



---

ご清聴、ありがとうございました。